

# 6年連続11回目の決勝対戦は親銀2連勝の7勝目で重工に大勝

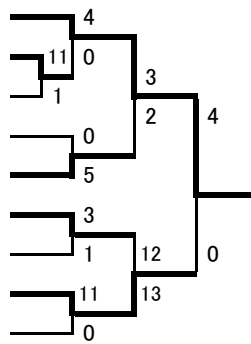
## 第54回長崎県軟式野球選手権大会

会期：平成16年10月16日(土)～10月18日(月)

会場：県営ビッグNスタジアム、かきどまり野球場

### 親和銀行(推薦)

御厨バイスターズ(松浦)	11	0
勝本北星(壱岐)	1	
県職五島(福江)	0	
巖原マリナーズ(対馬)	5	
島原市役所野球部(島原)	3	
ニューインペリアルレッズ(大村)	1	12
轟クラブ(北高)	11	13
島クラブ(平戸)	0	



三菱重工長崎(長崎)	4	
松尾総業野球クラブ(南高)	0	
ソニーセミコンダクタ九州(諫早)	7	
生月体協(県北)	1	
彼杵スラッガーズ(東彼)	3	
舛田グループ(上五島)	0	
大瀬戸クラブ(西海)	3	
エンゼルスクラブ(佐世保)	6	

第54回県軟式野球選手権大会第1日はビッグNスタジアム、長崎市営かきどまり野球場で二回戦計9試合を行ない、親和銀行、ソニーセミコンダクタ九州などが準々決勝に進んだ。

開会式では前回覇者の親和銀行を先頭に、各地区代表17チームが入場。優勝旗返還の後、長崎新聞社の朝長昭生専務が「猛練習の成果を発揮し、一投一打に悔いのな

い戦いを」と激励。選手を代表し親和銀行の原田和寛主将が「社会人らしくフェアプレーの精神で戦う」と力強く宣誓した。

親和銀行は山田、林の継投で、御厨バイスターズに4-0で快勝。彼杵スラッガーズはエース轟が4安打完封の3-0で舛田グループを下した。

(平成16年10月17日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

### 【一回戦】ビッグN

勝本北星	010 00	1
御厨バイスターズ	090 2X	11

(5回コールド)

(勝)宇都宮-川谷 (御)吉浦、川上-藤本

【本】福永、川上(御)

【三】坂本(勝)谷本(御) 【二】前田(勝)

### 【勝本北星】

背	氏名	年齢	背	氏名	年齢
30	松本 和也	32	11	小畑 雄一	30
10	坂本 謙太郎	27	12	品川 誠	27
0	川谷 龍司	21	13	宇都宮 征紀	29
1	大久保 智也	20	14	前田 次郎	32
2	小畑 清文	32	15	長尾 康隆	27
4	永元 晃一郎	27	19	吉本 敏臣	34
5	小畑 剛	38	20	岩本 圭介	28
6	坂口 圭太	20	21	松尾 泰一	20
7	浦川 龍介	29	22	下條 孝道	24
9	日高 正司	27	23	永元 裕三	19

(4年連続10回目出場)

### 【御厨バイスターズ】

背	氏名	年齢	背	氏名	年齢
30	長谷川次男	43	13	今村 修	27
10	川村 淳	33	14	前浜 崇志	19
1	酒井 直人	28	16	川上 広幸	43
2	小川 浩二	20	18	立石純一郎	18
5	谷本 祐二	33	19	藤本 寛	23
6	滝川 正博	39	20	本山 泰司	27
7	前田 勢二	34	21	辻 邦彦	31
8	武尾 和彦	33	23	泊 弘久	41
9	富野 寿朗	27	25	森 強	22
12	吉浦 彰二	28	28	福永 勝仁	21

(初出場)

### 【二回戦】ビッグN

県職五島	000 000 0	0
巖原マリナーズ	301 001 X	5

(県)中島、酒井-松田 (巖)佐々木-江口隆

【本】宮原(巖) 【三】佐々木(巖)

### 【県職五島】

背	氏名	年齢	背	氏名	年齢
30	松本 成一	40	16	田中 潤一	34
10	松田 一徳	24	17	中村 浩介	22
1	井村 誠司	38	18	酒井 淳一	21
3	折田 実	24	21	濱野 幸一	26
4	篠原 隆	31	22	鳥越 利雄	36
5	南里 敏洋	33	23	堀田 泰弘	27
7	金子 龍毅	25	27	中島 宏平	32
8	千代田 雄輔	21			
9	松尾 研太	27			
11	松尾 誠	25			

(初出場)

### 【巖原マリナーズ】

背	氏名	年齢	背	氏名	年齢
30	神宮 篤	41	13	宮原 大輔	22
10	山代 毅	23	14	小野 純	30
0	坂本 元太	20	15	岩本 一也	21
2	中庭 真司	20	16	佐々木大剛	18
3	坂上 仁志	29	18	手束 昭仁	38
4	竹下 英雄	35	22	益永 和夫	36
5	江口 豊隆	38	24	横松 修	35
6	工藤 大輔	29	27	江口 豊優	33
11	溝口 弘一郎	27			
12	古木 竜吾	29			

(初出場)

### 【二回戦】ビッグN

親和銀行	031 000 0	4
御厨バイスターズ	000 000 0	0

(親)山田、林田-平野、前川 (御)吉浦-藤本

【三】中田(親) 【二】下川2(親)

### 【親和銀行】

背	氏名	年齢	背	氏名	年齢
30	添田 宏治	35	22	沖田喜三郎	28
10	原田 和寛	28	24	中村 慎吾	28
1	北田 勝次	33	28	中田 直彦	33
2	平野 晃一	28	29	山田 幸一	24
5	森山 恵朗	30			
6	木崎 達也	24			
9	前川 雄紀	29			
11	山口 淳一	29			
18	林田 大輔	23			
20	下川 大輔	25			

(8年連続32回目出場)

### 【御厨バイスターズ】

背	氏名	年齢	背	氏名	年齢
30	長谷川次男	43	13	今村 修	27
10	川村 淳	33	14	前浜 崇志	19
1	酒井 直人	28	16	川上 広幸	43
2	小川 浩二	20	18	立石純一郎	18
5	谷本 祐二	33	19	藤本 寛	23
6	滝川 正博	39	20	本山 泰司	27
7	前田 勢二	34	21	辻 邦彦	31
8	武尾 和彦	33	23	泊 弘久	41
9	富野 寿朗	27	25	森 強	22
12	吉浦 彰二	28	28	福永 勝仁	21

(初出場)

【二回戦】ビッグN

島原市役所野球部	201 000	3
ニューインペリアルレッズ	000 010	1

(6回時間切れ)

(島)柴田-本多 (二)長野-戸嶋

【三】柴田(島)

【島原市役所野球部】

背	氏名	年齢	背	氏名	年齢
30	森本 一広	42	15	島田 欣也	45
10	吉田 修三	33	16	北田 広和	43
0	柴田 勝治	29	17	石尾 暢隆	31
2	小林 和徳	35	20	下田 宗慶	29
5	堀川 政伸	25	23	長橋 聡	28
6	佐藤 元俊	22	24	村田健太郎	21
7	橋村 俊栄	35	25	本多 博信	37
8	古川恵一郎	21	26	上田 耕三	38
11	吉田 信人	40	27	山本 周平	30
14	宮崎真之助	21	28	兼元 善啓	45

(3年連続12回目出場)

【ニューインペリアル】

背	氏名	年齢	背	氏名	年齢
30	中田 一久	44	11	藤本 利治	28
10	奥田 忠昭	35	16	浦野 隆繁	24
1	戸嶋 謙二	31	18	長野 剛	24
2	大平 力	24	19	岩永 悟	19
3	川崎 栄一	36	20	片山 誠	38
4	川波 寿雄	35	22	南原 寛人	32
5	岩永 聡	37	24	宮浦 圭助	19
6	上野 浩司	19	25	田中 祐典	23
7	上原 享	30	26	大園 則次	38
8	岩永 理	23	29	福島 俊二	43

(初出場)

【二回戦】ビッグN

島 クラブ	000 00	0
轟 クラブ	060 5X	11

(5回コールド)

(島)山見-藤田 (轟)本村、山口、境田-松永

【本】本村(轟)

【三】山口(轟) 【二】大木(轟)

【島クラブ】

背	氏名	年齢	背	氏名	年齢
30	梅木 源一	59	15	藤田 法恵	35
10	里村 亮	26	16	山見 弘幸	48
2	渡海 勇輝	24	17	村田 範保	42
3	西宮 伸文	25	19	椿山 修一	29
5	後藤 彰文	26	20	増本 憲次	38
6	永田 毅	29	21	福井 友亮	29
7	小野隆一郎	32	22	山田 昭吾	29
8	永田 基記	26	23	山中 剛史	27
9	石田 恒一	21	24	高橋 大典	29
14	柳本 浩二	40	27	岩永 繁範	30

(5年ぶり9回目出場)

【轟クラブ】

背	氏名	年齢	背	氏名	年齢
30	佐藤 公彦	35	9	木戸 豊	26
10	境田 正文	30	11	谷端 和豊	40
0	川根 知也	19	12	松永 定彦	20
1	北村 康久	27	15	藤田 準一	37
2	新北 智弘	31	16	山口 純一	21
3	大木 雅彦	34	17	坂下 彰	20
5	川副 寛法	23	18	本村 祐樹	20
6	木下 健志	25	24	神谷 暁	25
7	里山 研二	38	25	山口 辰美	39
8	尾崎 仁士	20			

(7年ぶり14回目出場)

【二回戦】かきどまり

松尾総業クラブ	000 000 0	0
三菱重工長崎	012 012 X	4

(松)川林-堀田 (三)赤瀬、永田-石川、鈴木

【三】久米、江崎(三)

【松尾総業クラブ】

背	氏名	年齢	背	氏名	年齢
30	香上 嘉彦	57	9	内田 順之	24
10	内田 隆広	26	11	柴内 泰宏	23
1	坂口健一郎	26	12	長池要一郎	22
2	中村 裕二	23	13	山田 知弘	23
3	内田 泰裕	22	14	中村 博也	25
4	堀田 哲宏	24	15	川村 哲平	22
5	田中 勝	22	16	山口 靖志	23
6	山田 嗣弘	25	17	松尾 翔太	20
7	吉田 憲正	22	19	川村 忠士	25
8	浅田 武史	21	20	松尾 太一	24

(初出場)

【三菱重工長崎】

背	氏名	年齢	背	氏名	年齢
30	榊本 大輔	33	9	浜里 将大	19
10	中村 勉	27	11	赤瀬 隆一	20
0	宮本 純	27	12	鈴木 亮一	27
1	管 賢一	24	16	守田 和博	24
3	香田 正宣	29	17	永田 勝敏	24
4	平野 靖	22	19	嶋野 祐介	25
5	石川 章孝	25	21	江添 伸治	30
6	久米 聡史	26	23	嵩下 絢也	24
7	松永 好明	29	26	上田 学	24
8	松本 真人	27	29	布村 正樹	41

(6年連続30回目出場)

【二回戦】かきどまり

ソニーセミコンダクタ九州	015 100 0	7
生 月 体 協	000 100 0	1

(ソ)森、水元-中尾 (生)石屋-久家

【三】森田大(生) 【二】久家(生)



2回表ソニーセミコンダクタ九州、無死一塁で西川がチーム初安打を左前に放ち好機を広げる

【ソニーセミコンダクタ九州】

背	氏名	年齢	背	氏名	年齢
30	天野 和行	35	9	岩田 章吾	23
10	川下 友久	28	11	水本 敏昭	30
0	登 哲也	25	15	砂月 啓吾	25
1	平湯 隆之	30	17	早田 昌弘	27
3	西村 卓也	20	19	森 直樹	23
4	江藤 淳	23	21	阿部 正人	33
5	川原 雅敏	25	22	中尾 洋	22
6	佐野 公博	20	23	西川 修	34
7	宮崎 義則	24	24	吉村 昇	22
8	吉崎 和宏	27	26	川下 修平	30

(2年ぶり13回目出場)

【生 月 体 協】

背	氏名	年齢	背	氏名	年齢
30	丸山 裕樹	34	16	森田 大吉	30
10	墨谷 智之	27	17	前田 泰太	24
0	坂口 尚睦	34	18	石屋 広三	28
1	近藤 暁	22	20	久家 勇樹	20
2	丸山 和希	22	21	伊藤 見智	28
5	田中 康一	27	22	藤永 雅之	32
7	塚本 康正	28	23	福田 修司	30
8	大崎 慎介	27	24	塩屋 孝人	33
14	戸田 剛	37	25	森田 大輔	32
15	鶴屋 大地	18	26	堀山 祐二	22

(2年連続8回目出場)

## ソニー九州 好発進

《2強崩し》へ闘志

9年ぶりのV奪回を狙うソニーセミコンダクタ九州が5安打で7点を奪う効率のいい攻撃で快勝。天野和行監督は「打線のつながりがよかった。ベンチで安心して見ていられた」と好発進に、愛好を崩した。

長打こそ1本もなかったが、単打や敵失で得た好機にエンドラン、盗塁、犠打を絡めて相手投手を揺さぶった。序盤三回までに6得点。エース森を3回で温存する余裕の試合運びだった。川下主将は「宮崎、佐野の1、2番を筆頭に若手が成長。責任あるプレーが要所でできている」と、手応えをつかんだ様子だった。

準々決勝は前回準Vの三菱重工長崎と対戦。天野監督は「勝負どころ。今季の対戦は3勝1敗で苦手意識はない」と親和銀行、重工長崎の『2強崩し』に闘志を燃やしていた。

【二回戦】かきどまり

彼杵スラッガーズ	000 000 3	3
舛田グループ	000 000 0	0

(彼) 靄-親泊 (舛) 湯川-鉄川

【二】三宅、立石(舛)

【彼杵スラッガーズ】

背	氏名	年齢	背	氏名	年齢
30	木場 健一	36	15	水溜 精吾	34
10	金谷 善壽	27	16	本山 博史	25
0	中原 康尊	23	18	相良照二郎	18
1	親泊 友勝	27	19	田中 信之	18
2	山下 正利	27	20	和田 健介	20
3	平川 竜也	30	22	福田 邦彦	35
5	靄 和浩	29	23	後瀬 学	34
6	三根 圭太	21	24	林瀬 正和	19
12	藤田 一生	23	27	佐藤 通人	23
14	浦 修一	35	28	三根 史也	18

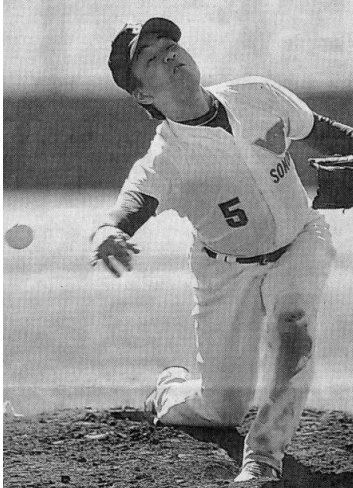
(2年ぶり9回目出場)

【舛田グループ】

背	氏名	年齢	背	氏名	年齢
30	浜崎 秀明	36	12	井内 恭広	32
10	立石 宏樹	33	13	前田 敬之	34
2	山道 伸一	30	14	松尾 幸康	21
3	青崎 真樹	30	16	木下 博輝	22
4	鉄川 雅之	23	17	立石 拓也	36
5	山田 明人	30	18	蔭山 喜孝	29
6	蔭山 淳	24	21	湯川 紀之	20
7	江口 旭	24	22	三宅 亮一	29
8	和田 武也	32	23	平田 勇夫	25
9	浦田 悟司	26	24	吉田 勇樹	21

(3年ぶり5回目出場)

# 多彩な球種で凡打の山



## 実力派右腕4安打完封 彼杵スラッガーズ・靄

彼杵スラッガーズ(東彼)のエース靄が4安打完封。「点を取られたら交代とベンチで話していたぐらいだから完封は頭の中になかった。まさか僕がヒーローインタビューなんてね」。チームメートの冷やかしの照れ笑いを浮かべた。

初回二死二塁のピンチを切り抜け波に乗った。右横手から手元で伸びる直球とカーブ、スライダーを低めに集めて凡打の山を築いた。最後の打者も投ゴロに仕留め捕手の親泊とがっちり握手を交わした。

佐世保実高時代は1学年下の村田善則捕手(巨人)とバッテリーを組んでいた実力派右腕。卒業後は軟式野球の日野自動車(福岡)に進んだ。23歳の時に、ひじ痛で競技生活にピリオドを打ち「今は楽しむ程度」。それでも「一応、実業団経験者なので、それなりの投球はしないと」と、ちょっぴりプライドものぞかせていた。

4安打完封した彼杵スラッガーズのエース靄

【二回戦】かきどまり

大瀬戸クラブ	300 0	3
エンジェルズクラブ	001 5	6

(4回時間切れ)

(大)市ノ瀬、瀧瀬-小橋 (エ)吉富、池田-楠本

【大瀬戸クラブ】

背	氏名	年齢	背	氏名	年齢
30	村野 幸喜	37	15	一瀬 洋平	20
10	小橋 章	39	16	吉岡 潤一	26
1	大石 三洋	28	17	鶴山 辰徳	29
3	本木 隆光	36	18	川原 進一	34
5	中野 正人	26	19	宮崎 正士	31
6	白濱 義晴	34	21	谷崎 昭仁	21
7	小橋 福具	21	22	瀧瀬 祐一	20
8	平尾 拓也	24	23	宮島 文博	46
11	深草 美郷	25	24	橋本 秀昭	21
14	市場 徹	24	27	濱谷 国宏	25

(4年ぶり10回目出場)

【エンジェルズクラブ】

背	氏名	年齢	背	氏名	年齢
30	近藤 幸男	42	12	松尾 仁博	20
10	深町 暢宏	28	16	松永 利雄	25
0	塩田 雅希	24	17	平野秀一郎	24
1	田代 敬三	28	20	吉田 明弘	25
2	楠本 昭憲	30	22	池田純一郎	40
3	大久保洋一	39	23	永田 幸治	31
5	松永 直人	29	24	大野 晴彦	39
7	熊本 剛将	28	25	田中 一博	39
8	山口 正太	27	27	吉居 晃介	31
11	吉富 貴幸	19	29	中野 友貴	19

(10年ぶり4回目出場)



今大会は、長崎新聞に戦評および個人テーブルの掲載がなかったので、大会プログラムから参加17チームの選手名簿を記した。今大会の大会役員も記しておく。

- |        |                          |        |                       |
|--------|--------------------------|--------|-----------------------|
| 大会名誉会長 | 松平 和夫 (長崎新聞社代表取締役社長)     | 競技委員長  | 森 清 (長崎市軟式野球連盟会長)     |
| 大会会長   | 伊藤 一長 (長崎県軟式野球連盟会長)      | 競技副委員長 | 高木 久男 (長崎市軟式野球連盟理事長)  |
| 大会副会長  | 朝長 昭生 (長崎新聞社専務取締役)       | 総務委員長  | 吉田 弘喜 (長崎県軟式野球連盟副理事長) |
|        | 八江 利春 (長崎県軟式野球連盟副会長・諫早)  | 総務副委員長 | 福島 孝俊 (長崎県軟式野球連盟事務局長) |
|        | 多田 穰 (長崎県軟式野球連盟副会長・対馬)   | 総務委員   | 上川 善高・石垣 朝範・片山 惟精     |
|        | 松沢 繁 (長崎県公認野球審判協会会長)     |        | 佐方 弘・大堀 信夫            |
| 大会委員長  | 横尾 眸 (長崎新聞社事業局長)         | 審判委員長  | 丸山 隆幸                 |
| 大会副委員長 | 平井 清光 (長崎県軟式野球連盟理事長)     | 審判副委員長 | 石井 悟・荒木 則道            |
| 大会委員   | 吉田 弘喜・森 清・村川 勇           | 派遣審判員  | 陶山 裕介(島原)・楠本 満(佐世保)   |
|        | 藤田 栄三・津田 学・兼元 善啓         |        | 田尻 政樹(平戸)・辻田直太郎(松浦)   |
|        | 古川 豊樹・堀之内輝雄・浜辺 広         |        | 森 彰夫(東彼)・山辺 圭介(県北)    |
|        | 林 淳之祐・宮口 明・菅生 修          | 審判員    | 長崎市軟式野球審判連盟審判員        |
|        | 山口隆一郎・寺田 辰夫・山下利平次        |        |                       |
|        | 三木 周一・吉野 徹・陶山 裕介         |        |                       |
|        | 福島 孝俊 (以上・長崎県軟式野球連盟理事役員) |        |                       |

大会第2日はビッグNスタジアム、かきどまり野球場で準々決勝、準決勝6試合を行ない、親和銀行と三菱重工長崎が決勝進出。8年連続同一カードとなった。

【準々決勝】かきどまり

親和銀行	100 110 0	3	中田、沖田-平野、前川
厳原マリナーズ	020 000 0	2	佐々木-江口

【三】溝口(厳)

【準々決勝】ビッグN

ソニセミコンダクタ九州	000 000 0	0	森-中尾
三菱重工長崎	002 200 X	4	永田-鈴木

【三】永田(三) 【二】永田(三)

【準々決勝】かきどまり(延長8、9回は無死満塁制)

島原市役所野球部	324 000 012	12	柴田-本多
轟クラブ	100 206 013x	13	本村、境田-松永

【本】尾崎(轟) 【三】本多(島)

【二】上田2、小林(島)境田(轟)

【準々決勝】ビッグN

彼杵スラッガーズ	030 000 0	3	
エンゼルスクラブ	000 223 X	7	

(彼)水溜、和田、本山-親泊 (エ)吉富、池田-楠本

【三】本山(彼) 【二】大久保(エ)

【準決勝】かきどまり

轟クラブ	000 000 0	0	境田-松永
親和銀行	301 000 X	4	中田、沖田-前川、平野

【二】原田、北田、前川(親)

【評】親和銀行は初回一死満塁から北田の右越え二塁打などで3点を先行。三回にも北田の中前適時打で1点を追加した。守っては先発中田が四回無失点と力投。五回から沖田につなぎ逃げ切った。

【準決勝】ビッグN (5回コールド)

エンゼルスクラブ	000 00	0	吉富-楠本
三菱重工長崎	001 15x	7	嶋野-石川

【三】上田(三) 【二】菅、香田(三)

【評】三菱重工長崎が7-0の五回コールド勝利。三回に香田の右前適時打で先制すると、四、五回にも着実に得点を重ね圧倒。先発の嶋野は五回を1安打完封した。

# 決勝は親和銀行 VS 重工長崎



親和銀行

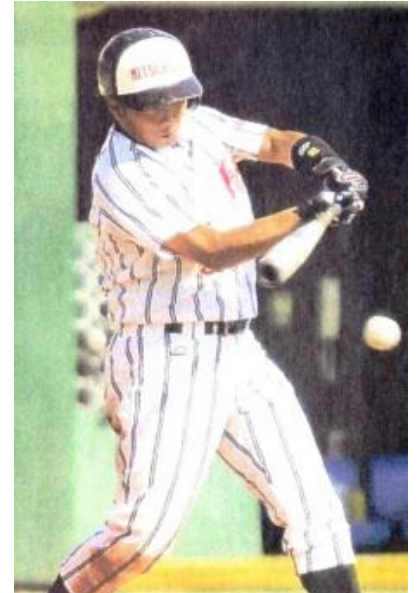
## 先発中田が無失点力投

準決勝の轟クラブを4回1安打無失点と力投した親和銀行の先発中田直彦  
轟クに4-0で快勝

重工長崎

## 香田2打点の活躍

準決勝のエンゼルス戦、3回裏一死三塁で三菱重工の5番香田正宣が先制の右前適時打を放つ  
エンゼルス下す



○…前回覇者の親和銀行が8年連続決勝進出。V2へ『マジック1』とした。添田宏治監督は「投手陣は安定しているが打線が爆発しないと」と湿りがちな打線に注文をつけた。

準々決勝は厳原マリナーズ(対馬)に3-2と辛勝。続く準決勝の轟クラブ(北高)戦も序盤に4点を奪い主導権を握った。しかし、その後は連打が出ずに無得点。中田-沖田の2安打零封リレーで何とか守り抜いた。

決勝は互いに手の内を知り尽くした宿敵三菱重工長崎が相手。添田監督は「一つのミスが命取りになるだろう。今季は無冠だけに、最後のこの大会だけは取りたい」と意欲を見せた。

○…三菱重工長崎の5番香田が先制打など2安打2打点と活躍。チームを勝利に導いた。

二回まで得点できなかった三菱重工長崎は三回裏敵失などで得た一死三塁の好機で香田。「先制して流れを引き寄せたかった」と、一二塁間をしぶとく破り先制。五回にも一死一二塁で左翼フェンス直撃の二塁打を放つなど勝負強さを見せた。

香田は「硬式(野球部)が社会人野球の日本選手権九州第一代表になったことは刺激になっている。軟式も優勝して今以上に会社を活気づけたい」と、2年ぶりの優勝に向け、闘志を燃やした。

# 親和銀行V2 中田が先制打 重工長崎に8-0

大会最終日は県営ビッグNスタジアムで決勝を行い、親和銀行が三菱重工長崎を8-0で下し、2年連続17度目の優勝を飾った。

親和銀行は初回二死後、中田の右前適時打など4安打を集めて4点を先制。その後も攻撃の手を緩めなかった。

守っては先発山田が5回を1安打無失点。六回以降も林田-山口の継投で得点を与えなかった。

三菱重工長崎は投手陣が乱れ8失点。打線も1安打に封じられた。

(平成16年10月19日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

【親和】打安点

④	原田	6	1	0
⑥	森山	3	2	0
⑧	中村	5	2	1
⑦	中田	5	1	1
③	下川	4	1	1
1	山口	0	0	0
⑨	北田	5	4	1
②	平野	2	1	1
H2	前川	2	1	2
①	山田	3	2	0
#	林田	1	0	0
⑤	木崎	3	1	0
		39	16	7

【決勝】 2時間34分 振球犠盗失併残

親和銀行	400 001 012	8	3	4	3	4	0	0	11
三菱重工長崎	000 000 000	0	3	0	0	0	1	0	1

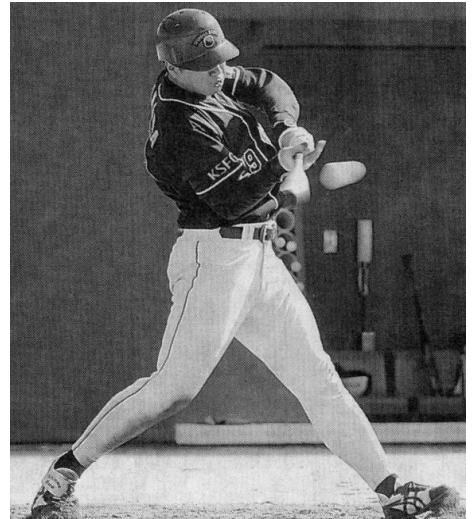
【三】中村、北田2、木崎

【二】中田、下川、山田2、前川、久米

【評】親和銀行が投打に三菱重工長崎を圧倒した。

親和銀行は打線が活発だった。16安打で8得点。初回到り相手投手の立ち上がりを攻め、二死三塁から中田の右前打など4連続適時打で4点を先行し主導権を握った。守っては今大会初先発の山田が伸びのある直球を軸に、5回1安打無失点の力投。終盤は林田につないで零封した。

三菱重工長崎の先発水田は高めに浮いた球を痛打された。打線も1安打と精彩を欠いた。



4回表親和銀行無死、山田浩一が左越え二塁打を放つ

【重工】打安点

⑤	松本	3	0	0
H	梶本	1	0	0
⑥	平野	3	0	0
④	久米	3	1	0
⑧	江添	3	0	0
②	石川	3	0	0
③	香田	3	0	0
⑨	上田	3	0	0
①	永田	2	0	0
1	赤瀬	0	0	0
H	菅	1	0	0
⑦	嵩下	3	0	0
		28	1	0

個人表彰

◇最高殊勲選手賞	北田勝次(親和銀行)
◇優秀選手賞	山田浩一(親和銀行)
◇敢闘賞	永田勝敵(三菱重工長崎)
◇優秀監督賞	添田宏治(親和銀行)

## ベテラン勇退に奮起

### 親銀 打線爆発で圧勝

「打線に爆発力があればな」。親和銀行の添田宏治監督の願いがナインに通じた。大一番の決勝でその打線が奮起。今大会最多の16安打を放ちライバル三菱重工長崎に圧勝。「理想的な試合運びだった」。

負けられない理由があった。今大会を最後に現チームの屋台骨を支えた山口と北田が勇退する。「二人に花道を」(原田主将)。ナインは闘志を奮い立たせた。準決勝まで湿っていた打線が初回二死から5連打で4点。その後も攻撃の手を緩めることはなかった。

先発山田も「先輩にかわいがってもらった。だから絶対勝たなかった」と5回1安打無失点の力投。伸びのある直球と縦に割れるカーブで高低を揺さぶり、つけ入るすきを与えなかった。最後の打者は勇退する山口が右飛に仕留めてゲームセット。ナインに穏やかな笑みが広がった。今季は山田が右肩痛で戦列を離れ投手力が低下。国体の代表権を逃がすなど結果を残せなかった。だが、来季につながる最後の大会を最高の形で締めた。「うちは全国優勝を狙うチーム。当然、県内では1番でなければならぬ。来季はやってくれる」(添田監督)。本県軟式野球界の雄が輝きを取り戻した。(西)

親和銀行と三菱重工の決勝戦での対戦戦績

チームの○数字は優勝回数

①	第18回(S.43年)	三菱重工② 7-0	親和銀行
②	第26回(S.51年)	親和銀行① 1-0	三菱重工
③	第35回(S.60年)	親和銀行④ 1-0	三菱重工
④	第36回(S.61年)	親和銀行⑤ 8-2	三菱重工
⑤	第37回(S.62年)	親和銀行⑤ 4-0	三菱重工
⑥	第49回(H.11年)	三菱重工⑩ 1-0	親和銀行
⑦	第50回(H.12年)	三菱重工⑫ 3-2	親和銀行
⑧	第51回(H.13年)	親和銀行⑮ 2-0	三菱重工
⑨	第52回(H.14年)	三菱重工⑬ 1-0	親和銀行
⑩	第53回(H.15年)	親和銀行⑯ 5-4	三菱重工
⑪	第54回(H.16年)	親和銀行⑰ 8-0	三菱重工

親和銀行の7勝4敗

平成16年に開催されたその他の競技会の戦績① (一般のみ)

第59回国体一般B 一次予選 5/8～:長崎

新星クラブ(島原)	2	
池島(西彼)	失	3
波佐見鴻ノ巣クラブ(東彼)		3
西海クラブ(佐世保)	2	0
松尾総業野球クラブ(南高)	3	0
西九州三菱自販(長崎)	5	10
福江球友会(福江)	0	0
中村クラブ(大村)	0	0
ソニーセミコンダクタ九州(諫早)	7	5
上対馬クラブ(対馬)	1	1
アイケン医院マッスルズ(佐世保)	4	0
小長井クラブ(北高)	2	0
九州電力長崎支店(長崎)	1	0
たちばな信用金庫(諫早)	6	0
ホワイトアパッチ(松浦)	0	2
箱崎クラブ(壱岐)	4	1
平戸クラブ(平戸)	7	0
生月体協(県北)	1	0
巖原マリナーズ(対馬)	2	0
舩田グループ(上五島)		5

第59回国体成年県予選 5/22～:松浦

ヨシイボーツクラブ(諫早)	5	
波佐見壮年クラブ(東彼)	0	1
松浦壮年クラブ(松浦)	2	1
轟壮年クラブ(北高)	0	3
福江クラブ(福江)	4	3
上五島迷球会(上五島)		棄
美津島ニューアース(対馬)	0	1
佐世保西海クラブ(佐世保)	9	4
おじんクラブ(平戸)	2	0
長崎市役所(長崎)	4	2
大瀬戸壮年野球部(西彼)	3	2
大村市役所(大村)		3

天皇賜杯第59回県予選 7/3～:諫早

西龍クラブ(平戸)	1	
全農長崎県本部(長崎)	2	2
若松クラブ(上五島)	1	4
吾妻町体協野球部(南高)	3	2
大村市役所(大村)	1	1
上対馬メッツ(対馬)	0	3
㈱親和銀行(佐世保)	6	6
福江市役所(福江)	0	7
小長井クラブ(北高)	5	8
ソニーセミコンダクタ九州(諫早)	7	3
新星クラブ(島原)	3	4
松浦市役所(松浦)	5	0
アイケン医院マッスルズ(佐世保)	9	2
生月体協(県北)	3	1
西海BOWS(西彼)	2	3
たちばな信用金庫(諫早)	8	1
彼杵スラッガーズ(東彼)	3	6
巖原ブラックカガース(対馬)	1	1
箱崎クラブ(壱岐)	6	棄権
西部ガス長崎(長崎)	4	

国体一般B 二次予選 5/29.6/5 長崎

一次予選で勝ち上がったソニーと三菱重工長崎による3戦2勝の二次選考会  
 ソニーセミコンダクタ 3-1 三菱重工長崎  
 三菱重工長崎 5-0 ソニーセミコンダクタ  
 ソニーセミコンダクタ 2-1 三菱重工長崎

一般Aは親和銀行推薦で九州国体へ

九州ミニ国体 8/22～:沖縄県  
 3部門とも九州で敗退

天皇賜杯第59回全日本 9/17～:宮城県  
 【一】 0-1 パイオニア(楸川越(埼玉))

第26回西日本1部県予選 4/10～:波佐見

波佐見野球倶楽部(東彼)	0	
TEAM橋口(大村)	4	6
轟クラブ(北高)	8	4
島クラブ(平戸)	1	6
吾妻町体協野球部(南高)	4	2
巖原マリナーズ(対馬)	3	3
舩田グループ(上五島)	3	2
西海クラブ(佐世保)	7	8
長崎県支払基金(長崎)	1	7
福島クラブ(県北)	0	8
安中クラブ(島原)	1	3
池島(西彼)	7	10
三井楽クラブ(福江)	1	2
御厨バイスターズ(松浦)	6	1
松石電設(諫早)		2

第26回西日本2部県予選 4/10～:南高

大瀬戸クラブ(西彼)	5	
森山クラブ(北高)	0	2
県職五島(福江)	0	1
有明クラブ(南高)	3	2
全田平(県北)	5	6
J・POWER 松浦(松浦)	3	1
巖原ファイターズ(対馬)	2	0
佐世保市役所(佐世保)	3	3
ホワイトスターズ(東彼)	0	11
ブルーエンジェル(大村)	5	5
新星クラブ(島原)		6
同志会(上五島)		棄
西龍クラブ(平戸)	0	7
一松クラブ(長崎)	3	0
東海クラブ(壱岐)	1	2
ATMB(アトム)(諫早)		10

第27回九州選手権予選 佐世保

アイケン医院マッスルズと西部ガス長崎が、佐賀県での大会に出場。

第8回西日本選手権予選 9/11～:諫早

西部ガス長崎支店が優勝

第8回西日本選手権 10/29～:奈良県

【一】 2-1 中澤氏家薬業(高知)  
 【二】 1-2 大阪市信用金庫=優勝

第12回県成年大会 10/30～:飯盛

松浦壮年クラブ(松浦)	3	
大瀬戸壮年野球部(西彼)	5	1
ヨシイボーツクラブ(諫早)	12	0
長工クラブ(長崎)	7	5
おじんクラブ(平戸)	0	1
メンフッズ福江(福江)	7	6
上県トンボ(対馬)	2	6
アンクルボーイズ(壱岐)	0	4
大村市役所(大村)	1	11
轟壮年クラブ(北高)	4	6
40'OVERS(佐世保)	2	7
波佐見フェニックス(東彼)	6	3
北松壮年クラブ(県北)		0

第26回西日本大会1部 5/14～:山口県

【一】 2-1 日南体協野球部(鳥取)  
 【二】 7-8 (11回)レッドキャノンズ(愛媛)

第26回西日本大会2部 6/4～:岡山県

【二】 4-2 チッタ会(和歌山)  
 【準々】 3-4 鉄人(愛媛)

平成16年に開催されたその他の競技会の戦績②（一般のみ）

高松宮賜杯第48回 1部 6/12～：西彼

長崎県支払基金(長崎)	3
彼杵スラッガーズ(東彼)	0 2
安中クラブ(島原)	0 3
御厨ベイスターズ(松浦)	7 7
奈良尾クラブ(上五島)	0 2
大村市役所(大村)	9 6
福島クラブ(県北)	11 5
吾妻町体協野球部(南高)	2 3
西海棒球队(西彼)	6 10
佐藤小佐世保クラブ(佐世保)	2 2
島クラブ(平戸)	1 0
轟クラブ(北高)	8 3
巖原レパーズ(対馬)	0 10
たちばな信用金庫(諫早)	16 5
三井楽クラブ(福江)	0

高松宮賜杯第48回 2部 5/29～：生月、平戸

全田平(県北)	4
長崎東芝セラミックス(東彼)	3 2
今福メツククラブ(松浦)	0 5
ニュー・インパリアル・レッズ(大村)	7 1
一松クラブ(長崎)	4 2
森山クラブ(北高)	5 7
石田ジャガーズ(壱岐)	4 0
健友クラブ(島原)	5 1
西龍クラブ(平戸)	8 9
40'OVERS(佐世保)	0 2
県職五島(福江)	4 6
大瀬戸クラブ(西彼)	5 2
ドルフィンズ(諫早)	8 4
有明クラブ(南高)	2 9
佐賀エンゼルス(対馬)	10 1
クラブZOO(上五島)	0

第56回県民体育大会 11/13～：長崎

(西彼杵)西海棒球队	4
(対馬)豊玉サンライズ	3 0
(長崎)三菱重工長崎	4 7
(南高来)吾妻町体協野球部	0 8
(松浦)御厨ベイスターズ	3 1
(北高来)轟クラブ	5 2
(南松浦)舩田グループ	3 1
(島原)新星クラブ	2 7
(大村)TEAM橋口	17 0
(北松浦)オール江迎	2 5
(平戸)西龍クラブ	5 4
(東彼杵)彼杵スラッガーズ	4 2
(壱岐)箱崎クラブ	2 9
(諫早)ニセモンダク九州	7 3
(五島)三井楽クラブ	3 6
(佐世保)西海クラブ	5

九州ブロック(熊本)で敗退

九州ブロック(福岡)で敗退

平成の大合併と長崎県軟式野球連盟支部組織について

長崎県は平成16年(2004年)2月末日まで、8市(長崎、佐世保、諫早、大村、島原、平戸、松浦、福江)、9郡(東彼杵、西彼杵、南高来、北高来、北松浦、南松浦、壱岐、下県、上県)の計17市郡の79市町村であった。その市郡を長崎県軟式野球連盟は16支部に分けて、各支部代表による県軟式野球大会を行ってきたが、『平成の大合併』により、その16支部が15支部となった。

市町村合併(編入)は、平成16年3月1日に下県郡の巖原、美津島、豊玉の3町と、上県郡の峰、上県、上対馬の6町合併による『対馬市』と、同日に壱岐郡の郷ノ浦、勝本、芦辺、石田の4町の合併で『壱岐市』が誕生したのが皮切りだった。この2島3郡は、元々県連組織では、壱岐、対馬の2支部を形成していた。

同年8月1日には、『五島市』と『新上五島町』が誕生。『五島市』は福江市と、南松浦郡の富江、玉之浦、三井楽、岐宿、奈留の、中・下五島の1市5町が合併。『新上五島町』は、有川、上五島、新魚目、若松、奈良尾の5町対等合併により、南松浦郡新上五島町として船出した。

県連支部組織においては、元々『五島市』エリアを「福江支部」。『新上五島町』エリアを「上五島支部」としており、問題は無かった。ただ、県民体育大会に関して、従来は「福江市」「南松浦郡」としての枠であったため、福江支部内の「富江クラブ」が南松代表として出場し県体で2年連続優勝したこともあったが、今後は『五島市』の予選を経てくることになった。

翌17年は1月4日付けで、長崎半島の香焼、伊王島、高島、野母崎、三和の西彼杵郡5町と、西彼杵半島の外海町が『長崎市』に編入され、琴海町もちょうど1年後に長崎市となった。

西彼杵郡で残った、西彼、西海、大瀬戸、大島、崎戸の5町は、同年4月1日から『西海市』となり、時津と長与の2町だけが『西彼杵郡〇〇町』。あと一つの多良見町は、『西海市』が誕生する1ヶ月前の3月1日に、北高来郡4町の、森山、飯盛、高来、小長井と共に、新『諫早市』に編入された。

ここで県連支部組織に変化が生じた。まず従来の西彼杵郡内で組織していた「西彼支部」。これが大きく変わった。新たに『西海市』エリアで「西海支部」を編成し西彼杵郡の、時津と長与には一般の登録チームがなかったが、学童と少年(中学)の

チームが加盟する支部組織が無くなった。そのの所は、県連の裁量により便宜を図って県大会への道は開かれている。

そして、北高来郡4町で組織していた「北高支部」が消滅することになった。県選手権大会においては、第29回(昭和54年)に諫早・北高地区が分離し、26年の間に北高支部代表で出場した轟クラブ、小長井クラブ、飯盛クラブ、森山クラブらは、17年度から「諫早支部」内で勝ちあがって行くことになった。

『西海市』が誕生した同日の4月1日は、北松浦郡の吉井と世知原の2町が『佐世保市』に編入。10月1日には田平と生月の2町と県内唯一の「村」、であった大島が『平戸市』となる。また福島と鷹島は、年が明けた1月1日に『松浦市』に編入。かつて「石炭景気」に沸いた北松浦郡も、小佐々と離島の宇久が18年3月31日には『佐世保市』へ。そして、鹿町と江迎の2町も22年3月31日に『佐世保市』となり、13町村を有した北松浦郡は離島の小値賀と佐々の2町だけとなった。

「北松浦郡」エリアは、県北支部。松浦市となった福島や、平戸市となった生月のチームは、その支部組織となったが、本土(?)に位置する平戸市の全田平は県北支部。佐世保市編入となった吉井なども…。江迎に鹿町は…。これからの支部組織に頭が痛い、平戸市田平に在住の寺田辰夫県北支部理事長である。

そんな苦悩の県北地区に比べて、多少の動きはあったが、何事もなかったのが「東彼杵郡」の3町で形成する東彼支部。大村支部にいたっては、波も立たなかった。

最後に島原半島。ここは南高来郡16町に大きな動きがあった。まず17年10月1日に『雲仙市』が噴出(?)した。愛野、吾妻、瑞穂、国見、千々石、南串山に、御山雲仙を有する小浜の7町が混浴すると、年が明けた18年元日に有明町が『島原市』に編入。年度末の3月31日に、深江、布津、有家、西有家、北有馬、南有馬、口之津、加津佐の8町で『南島原市』が誕生。県連支部も「南高」から「県南支部」に改称し、『雲仙市』と『南島原市』の2市エリア内のチームで組織している。だが、県体になると2市から出場しており、15支部でありながら16チーム参加となっている。もし西彼杵郡の2町(時津、長与)から県体軟式野球に参加があれば、17チームとなり大会運営も苦しくなってくるが……。